

岡山・駅前町1丁目地区再開発

事業者にJV決定

JR西不動産など3社

JR岡山駅東口で計画されている岡山市北区駅前町1丁目地区の再開発事業で、地権者らでつくる再開発準備組合が、核テナントとなるホテル整備を担当するJR西日本不動産開発（兵庫県尼崎市）などの共同企業体（JV）を、開発事業者として正式に決めたことが13日、分かった。

JVは同社とマンション販売などの野村不動産（東京）、ゼネコンの奥村組（大阪）の3社。7日付で事業協力協定を結んだ。JVは昨年12月、JR西系列の高級ホテルとマンション、立体駐車場の3棟からなる計画を組合に示し、開発業者に内定していた。

予定地は岡山駅前商店街と市役所筋に面した約1畝（道路除く）で、映画館や貸しビル、駐車場などがある。構想では、ホテル棟は24階程度。宿泊中心の高級業態でスイートルームを設けるほか、コンベンション施設も確保する。マンションは3棟は2階部分をデッキで行き来でき、将来は駅舎と結ぶことも視野に入れている。準備組合は権利者40人・法人のうち約7割



岡山市北区駅前町1丁目地区で計画されている再開発事業の完成イメージ図。左がマンション棟、右がホテル棟、右奥が立体駐車場

棟は28階程度。3棟とも低層階に物販や飲食、アミューズメントなどの商業施設が入る。3棟は2階部分をデッキで行き来でき、将来は駅舎と結ぶことも視野に入れている。準備組合は権利者40人・法人のうち約7割が加入し、昨年9月に「市の都市計画決定を受」し、早期の事業化を目標とした。今後は岡山「けて再開発組合に移行」指す。（久岡広和）